

Numbering code		U-LAS06 20030 LJ43			
Course title <English>		現代経済社会論II Contemporary Socio-Economic Theory II		Affiliated department, Job title,Name	Part-time Lecturer,KUROMIYA Kazumoto
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)	Jurisprudence, Politics and Economics(Issues)
Language		Japanese		Old group	Group A
Number of weekly time blocks		1	Class style		Lecture
Day/period		Fri.2	Target year		All students
Number of credits		2			
Course offered year/period		2019・Second semester			
Eligible students		For all majors			

[Outline and Purpose of the Course]

本講義では、現代社会の政治経済を規定している根本条件について考えるために、それらがいかなる思想史的経緯からもたらされたのかを概観する。なかでも、前期開講の「現代経済社会論I」に引きつづき、冷戦終結以降の世界を席卷し、また、昨今行き詰まりが指摘されるようになったグローバリズム（および新自由主義）の問題が何であるかを論じながら、今日それらへの抵抗、対抗思想として生起している（きた）とされ、ときに「（排外主義的）ナショナリズム」と呼ばれるもする保護主義や自国中心主義、移民排斥運動などをいったいどのように考えればよいのかということが中心的な論点となる。こうした問題を追究するために、本講義では、グローバル資本主義の問題がもたらす今日の経済社会の閉塞がいかなるものであり、また、それがいかにして生じてきたのかを、「経済についての見方」あるいは「社会的価値」の次元で考察し、そのうえで、急速な近代化への抵抗として生みだされ、また「反近代主義」とも目されてきたナショナリズムの歴史的変遷と今日的な意味について考えていくことにする。

[Course Goals]

- 1 グローバル資本主義の問題を「価値」の次元から説明することができる。
- 2 近代的ナショナリズムの歴史的変遷と現代の変奏について、ナショナリズムの諸理論を用いて説明することができる。
- 3 今日の経済社会の重要な論点は何であるかを講義で解説した知識を用いて自ら見だし、それについて考察することができる。

[Course Schedule and Contents]

本講義では、以下の各論点につき1～3回の講義をおこなう予定である。ただし、ときどきの「状況」についての総合的な解釈を試みながら講義を展開していく予定であるため、各論点をとりあげる順序は変更する場合もある（大きな変更がある場合には、最初の講義において説明する。

- 1 「経済成長主義」の限界？
- 2 戦後世界の「進歩」を促したもの
- 3 近代ナショナリズムの生成と進展: 資本主義との関係から
- 4 ナショナリズム=反近代主義?: 近代化およびグローバル化への反動か？
- 5 戦後日本におけるナショナリズムの問題
- 6 善き社会/善き生をどのように思考・志向するか: 経済社会の「価値」問題

Continue to 現代経済社会論II(2)

現代経済社会論II(2)

:

[Class requirement]

この授業だけを受講することも可能だが、前期の「現代経済社会論」を履修していることが望ましい。

[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]

学期末におこなう定期試験（80％）、および授業時間内に実施する小課題（小レポート、コメントシートなど、20％）により評価する。

[Textbook]

Not used

[Reference book, etc.]

（Reference book）

Introduced during class

[Regarding studies out of class (preparation and review)]

とくに教科書は指定しないので、講義内で適宜紹介する文献を読んでみることをすすめる。

[Others (office hour, etc.)]

受講するにあたって特別な予備知識は必要としないが、現代経済社会の諸問題について、政治・経済思想のみならず、幅広い観点から、歴史的かつ哲学的に思考することに関心を寄せる人の履修が望ましい。